

のぞいてみよう!
二十村郷

にじゅうむらごう



雪と山間の集落 にじゅうむらごう 二十村郷

みんな、「にじゅうむらごう三十村郷」って知ってる？

今はもう地図には載っていないけれど、新潟県の長岡市（旧山古志村、旧川口町）と小千谷市（ひょうごうひょうごう）にまたがる標高500m程の山間にあった集落なの。冬は雪に閉ざされるきび厳しい自然の中で、昔の人は色んな工夫をして生活してきたそうなんだ。

今も残るその伝統文化や自然を活かした暮らしが国に認められて、平成29年に全国でも数少ない地域しか認定されていない「にほんのうぎょういざん日本農業遺産」の1つに選ばれたんだよ！この地域が一体どんなところか一緒に見てみよう！



【たなだ たないけ棚田と棚池】

この集落はほぼ山に囲まれていて、平らな土地がないの。だから、昔の人は山の斜面を階段状にならして、「たなだ棚田」を作ったんだって。重機もない時代だから本当に大変だったと思うんだ…。すごい。冬は食料がとれなくなるから、狭い土地でも育てられる「せま鯉」が養殖されるようになったんだ。となり たないけ こい田んぼのすぐ隣の「棚池」に鯉がいる風景は、全国的に見てもすごく珍しい文化らしいよ。

【冬の大雪】

新潟県と言えば、日本屈指のくっし ごうせつ豪雪地帯！二十村郷でも、場所によっては3m以上も積もったそうなの。昔はあまりの雪の多さに、冬の間だけ人が通る為に雪のトンネルを掘ってたんだって！積もった雪は、春になると雪解け水になって棚池に流れ込むんだけど、その水を使って稲作や鯉の養殖を行うんだって！棚池には「夏の農業用水を確保しておく」機能もあるんだよ。

【さいの神】

「さいの神」は知っているかな？正月が明けて、まだ雪のある1~3月ごろ、秋に集めておいた茅の枯草を3m以上の高さに組み上げて燃やすの！大きいものだと10m以上になることもあるの。昔からこの火にあたると体が丈夫になる、習字を燃やすと字が上手になると言われているよ。別のところでは「どんと焼き」なんて呼ばれたりもしてるの。

世界を魅了する国魚、錦鯉

【泳ぐ芸術品、錦鯉】

錦鯉といえば、知らない人はいない程有名だけれど、それが二十村郷のあった長岡市と小千谷市で生まれたことは知っているかな？

雪に覆われた冬の間は食料が採れない。でも、牛や豚などを育てるための平らな土地も確保しづらい…そんな環境だったから、冬の食糧源として狭い池でも飼育できる真鯉が養殖されていたの。

ある時、体が真っ赤な鯉が生まれて、これに興味を持った村の人たちが何代も品種改良した結果、現在のよう鮮やかな模様の鯉が出来上がったそうよ。

その当時は「色鯉」「花鯉」「模様鯉」など色々な呼び方があったけれど、いつしか織物のように美しく優雅な見た目から「錦鯉」と呼ばれるようになったみたい。

【海外で錦鯉が大人気!?!】

そんな風にな人を魅了する錦鯉だけれど、近年海外でNishikigoいブームが起きているみたい!

なんと、日本で育てられた錦鯉の8割以上が、アメリカ、ヨーロッパ、アジアといった、海外の色々な地域に輸出されているよ!

売値は数百円~一千万円以上と様々で、中には1匹で数億の値段がついた鯉もいるんだって。

買い手によって好みは様々で、柄・色・体つき、さらに泳ぎ方で選ぶ人もいるみたい。

オークションや品評会も盛んで、本当に芸術品と変わらないの。「泳ぐ宝石」と呼ばれているのも納得だね。



錦鯉の種類は模様で変わるんだ。

色も種類があるんだぜ!

 こうはく 紅白	 たいしょうさんけ 大正三色	 しょうわさんけ 昭和三色
 べにごい 紅鯉	 ころも 衣	 ごしき 五色
 ぶらごい ラ	100!?	 からさごい 烏鯉

細かく種類分けすると100種類以上! この他にもまだまだ沢山いるぜ。

しゅうすい
秋翠

ずいどう
【隧道】

昔、となりの村に行くためには、山を越えていかなければならなかったんだ。冬はあまりの雪の多さに、人の足では山を越えて行くのは困難で、病気になっても医者に診てもらうことが出来なくて、亡くなった人もいたそうだよ。そこで、となりの村へ安全に行き来できるように、機械の無い時代だったけど、村のみんなが協力して、隧道(トンネルの古い呼び方)を手掘りしたんだ。



ちゅうえつだいしんさい
【中越大震災】

2004年10月23日。最大震度7を記録する大地震が二十村郷があった地域を襲ったの。

中でも旧山古志村は甚大な被害を受けて、村民全員が避難しなければならない程だったんだ。飼育されていた錦鯉や牛たちは住民の避難後、数日以内にヘリコプターで救助されたそうだよ。

交通機関に地域産業、本当に多くの物が壊されてしまったんだけど、多くの人が復興に尽力してくれたおかげで、震災から3年後、避難所から山古志に帰ることができたんだ。

えちご とうきゅう
【越後山古志の闘牛大会】

昔、車の無かったころ、道が狭く段差のある棚田棚池で農作業をするときは、牛が大活躍し、とても大切にされていたの。

二十村郷の地域には今でもおこなわれている、数百年前から続く「牛の角突き」という伝統行事があるの。牛がお互いの角をぶつけ合う様子は、本当に大迫力なんだ!でも、昔から大切な牛を傷つけないように「必ず引き分けにする」ってルールがあるの。

勢子と呼ばれる人たちがタイミングを見計らって牛同士を引き離す光景も見どころで「国指定重要無形民俗文化財」にも指定されているよ。





【血縁集団】

「マキ」と呼ばれる家族や親せきが協力をする集まりがあるの。

昔、冠婚葬祭はマキの人たちで行っていたんだ。今は結婚も葬儀も専門の業者さんがいるから、家族や親せきだけで行うということはなくなったの。だからマキは今では、昔ほどは使わない言葉なんだって。

冠婚葬祭の他にも水を取り合わないように、それぞれのマキの中で分け合ったりもしていたんだって。

二十村郷の自然の生き物たち



写真提供：長岡市立科学博物館

モリアオガエル

体長4~8cm。池などの上に張り出した葉や水辺の茂みなどに卵を産む。準絶滅危惧種。



写真提供：長岡市立科学博物館

コシノカンアオイ

葉の形はハート型で、暗紫色の花が地面から咲く。ギフチョウの幼虫の食草でもある。



ギフチョウ

日本の固有種で、本州に生息している。カタクリやサクラの花の蜜をエサにしている。準絶滅危惧種。



写真提供：長岡市立科学博物館

タニウツギ

田植えの時期(5~6月)に開花する植物。寒さに強い。ピンク色の花が咲く。

【自然がたくさん】

二十村郷には、珍しい動植物も生息しているの。

ここに載っている「モリアオガエル」や「ギフチョウ」「コシノカンアオイ」は、準絶滅危惧種に指定されているよ。

準絶滅危惧種とは、絶滅危惧種ほど少なくはないけれど、このまま減り続けると、地球から絶滅してしまう可能性のある、絶滅危惧種になってしまう生き物のことなの。

2019年までのデータでは、植物や動物含めたすべての絶滅危惧種だけで、なんと3,732種にもなるの。



二十村郷にはこんなところがあるんだぜ！
実際に写真で見てみよう！



写真提供：青木一政

▲手前には棚田、奥には棚池。
二十村郷にはこんな景色が沢山あるんだぜ。



写真提供：青木一政

▲錦鯉を棚池から上げるところだ。
大きな鯉は専用の袋に入れて運び出すぜ。



写真提供：青木一政

▲中くらいの鯉は抱えて運んだりもするぜ。
トラックに積んだ水槽に錦鯉を入れて、棚池から
ハウスへ移動するんだ。



写真提供：青木一政

▲これは「はさ掛け」
木に刈った稲を掛けて干すんだ。
これで狭いところでも沢山干せるな。



↑は現在の中山隧道だよ。
今はもう通り抜けないんだ。
山古志側から 50m くらいの距離は
● ● 自由に入って見ることができるよ。



写真提供：青木一政

▲牛の角突き。
勢子の人たちが牛の周りにいるんだ。
牛たちを止めるプロの人たちなんだぜ。



写真提供：青木一政

▲50年以上昔の白黒写真だぜ。村の外から
写真屋さんを呼んで撮ってもらったものだ。
昔から牛は大切にされてきたんだな。



写真提供：青木一政

▲牛飼いの人と牛だ。
これから闘牛場に向かうのかもな。



写真提供：青木一政

▲中越大震災では、道路も家も壊れたところが
沢山あったんだ。



写真提供：青木一政

←これが「さいの神」だぜ。よく燃えているな。
飲み物を配ったりスルメを焼く準備中だ。



さいの神は、燃やしてる最中は、熱すぎてとてもじゃないけど近づけないの。
ある程度燃え終わって火が弱くなったタイミングでスルメやお餅^{もち}を焼くの！





発行：長岡市錦鯉養殖組合

イラスト：地域おこし協力隊 熊谷万里歩

写真提供：長岡市立科学博物館、青木一政